

2014年2月28日

～大規模災害への備えは十分ですか？～
住まいの強靱化に関する調査報告

株式会社LIXIL住宅研究所
アイフルホームカンパニー

株式会社LIXIL住宅研究所 アイフルホームカンパニー(住所:東京都江東区亀戸 1-5-7/プレジデント:今 城幸)では、住まいの耐震化状況、大規模災害への備えなどにつきまして、一戸建て(持ち家)にお住まいの既婚女性500名を対象に調査を実施しましたので、ご報告します。

I. 調査結果の概要

1) 住まいの耐震状況について

◇1981年以前に建築した木造住宅にお住まいの方では

- 現在のお住まいは「耐震基準を満たしていないと思う」との回答が77.6%
- 現在のお住まいは「耐震診断を受けたことがある」との回答はわずか4.5%
- 現在のお住まいは「耐震対策リフォームを実施している」との回答はわずか6.0%

2) 大規模災害に対する住まいの備えについて

◇大規模地震が発生した場合、不安を感じていることは？

- 第1位:水道・ガス・電気などライフラインのストップ(73.2%)
- 第2位:自宅(家屋)の倒壊・損壊(61.6%)
- 第3位:食料品・飲料品の不足(60.8%)

⇒ 大規模地震が予測されている地域内の方は、地域外の方に比べて、全ての項目で不安の比率が高く、特に津波は約3倍

◇お住まいにおける大規模災害への準備は？

- 「十分に準備していると思う」はわずか2.8%
- 76.2%の住まいで準備不足を認識していることが判明

⇒ 大規模地震が予測されている地域内の方でも、69.5%が準備不足と認識

◇お住まいにおける大規模災害の対策は？

- 第1位:非常用備品(生活必需品、避難用品など)の準備(48.5%)
- 第2位:住宅用火災警報器の設置(40.6%)
- 第3位:非常用持ち出し袋の用意(39.2%)
- 第4位:テレビなどの転倒防止策の実施(35.1%)

◇大規模災害に備えてお住まいで用意している品は？

- 第1位:懐中電灯や手回し充電ライト(78.9%)
- 第2位:食料/保存食含む(77.1%)
- 第3位:保存水/飲料水(66.5%)
- 第4位:コンパクトラジオ(60.1%)

◇大規模災害で電気・ガス・水道のライフラインが全てストップし、救援がなく孤立した場合

- 現在の備品で2日から3日間、耐えられるが51.8%
- 最も生活に影響のあるライフラインは「水道」54.6%、「電気」42.4%

【報道関係者のお問合せ先】

(株)LIXIL住宅研究所 広報・宣伝部 担当:千明(ちぎら)

電話:03-5626-8251 メール:chigirak3@lixil-jk.co.jp

アイフルホームホームページ/TOP URL:<http://www.eyefulhome.jp/>

本ニュースリリースは、本日、国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会にて、広報発表しています。

II. 調査データ

●調査 I 住まいの耐震状況について

★木造住宅/在来工法やツーバイフォー工法（以下、木造住宅）にお住まいの396名が回答

1) 1981年以前に住まいを建築した方では、

「耐震基準を満たしていないと思う」との回答が77.6%に達する

・「あなたのお住まいは、耐震基準を満たしていますか？」との質問に対して、「耐震基準を満たしていると思う」が55.1%、「耐震基準を満たしていないと思う」が29.3%となっています。

また、「耐震基準自体がわからない」との回答も15.7%となっています。

・「耐震基準を満たしていないと思う」との回答は、築年数が古いほど増加しており、1981年以前に建築した方では77.6%に達しています。

Q1. あなたのお住まいは耐震基準を満たしていますか？ ※カッコ内は実数

	耐震基準を満たしていると思う	耐震基準を満たしていないと思う	耐震基準自体がわからない	合計
2013年から2011年	91.3%(63)	2.9%(2)	5.8%(4)	100%(69)
2010年から2001年	82.1%(96)	8.5%(10)	9.4%(11)	100%(117)
2000年から1991年	46.7%(35)	33.3%(25)	20.0%(15)	100%(75)
1990年から1982年	30.4%(17)	39.3%(22)	30.4%(17)	100%(56)
1981年以前	10.4%(7)	77.6%(52)	11.9%(8)	100%(67)
建てた時期を知らない	0.0%(0)	41.7%(5)	58.3%(7)	100%(12)
全体	55.1%(218)	29.3%(116)	15.7%(62)	100%(396)

2) 1981年以前に住まいを建築した方では、

「耐震診断を受けたことがある」との回答はわずか4.5%

・1981年以前に建築した木造住宅にお住まいの方で、「耐震診断を受けたことがある」との回答はわずか4.5%です。

・86.6%の方が「耐震診断を受けていない」ことが判明しました。

Q2. あなたのお住まいは、耐震診断を受けましたか？

⇒1981年以前に建築した木造住宅にお住まいの67名が回答

	実数	比率
耐震診断を受けたことがある	3	4.5%
耐震診断を受けたことがない	58	86.6%
耐震診断を受けたか知らない	6	9.0%
全体	67	100%

3) 1981年以前に住まいを建築した方では、

「耐震対策リフォームを実施している」との回答はわずか6.0%

・1981年以前に建築した木造住宅にお住まいの方で、「耐震対策リフォームを実施している」との回答はわずか6.0%です。

・46.3%の方が「耐震対策リフォームを実施するつもりはない」ことが判明しました。

Q3. あなたのお住まいは、耐震対策リフォームを実施していますか？

⇒1981年以前に建築した木造住宅にお住まいの67名が回答

	実数	比率
耐震対策リフォームを実施している	4	6.0%
今後、耐震対策リフォームを行いたいと思う	28	41.8%
耐震対策リフォームを実施するつもりはない	31	46.3%
耐震性が高いため、耐震対策リフォームの必要がない	4	6.0%
全体	67	100%

●調査Ⅱ 大規模災害に対する住まいの備えについて

★一戸建て(持ち家)にお住まいの500名が回答

4) 大規模地震が発生した場合、不安を感じていることは、

「水道・ガス・電気などライフラインのストップ」が73.2%でトップ

・「大規模地震が発生した場合に不安を感じていること」を複数回答で質問したところ、トップは「水道・ガス・電気などライフラインのストップ」が73.2%。続いて「自宅(家屋)の倒壊・損壊」(61.6%)、「食料品・飲料品の不足」(60.8%)の3つが60%以上となっています。

・「不安を感じることはない」との回答はわずか2.4%で、大多数の方が不安を感じていることが判明。

Q4. 万一大規模地震が発生した場合、不安を感じていること(複数回答) N=500

順位		実数	比率
1	水道・ガス・電気などライフラインのストップ	366	73.2%
2	自宅(家屋)の倒壊・損壊	308	61.6%
3	食料品・飲料品の不足	304	60.8%
4	家具の転倒、ガラスの飛散による閉じ込めや怪我	278	55.6%
5	家族が離散しないか(安否が確認できるか)	263	52.6%
6	類焼火災(近所からのもらい火や大規模火災)	204	40.8%
7	自宅(家屋)からの出火	189	37.8%
8	避難場所へ安全に速やかに移動できるか	172	34.4%
9	河川の防波堤の決壊や浸水	99	19.8%
10	治安の悪化	97	19.4%
11	津波	74	14.8%
12	高齢者の家族を無事避難させられるか	64	12.8%
13	その他	9	1.8%
	不安を感じることはない	12	2.4%

★大規模地震の発生が予測されている地域内に居住している方(154名)と

予測されている地域以外に居住している方(250名)の比較

- ・不安を感じている項目の全てで、大規模地震の発生が予測されている地域内の方が高い
- ・予測されている地域の方では、食飲料品不足、大規模火災、安全な避難、河川の決壊、治安の悪化が、地域外の方に比べて10ポイント以上高い。

・特に、津波については、9.2%(地域外)に対して地域内は約3倍に！

Q4. 万一大規模地震が発生した場合、不安を感じていること(複数回答) ※カッコ内は実数

順位		発生が予測されている地域内に居住 N=154	発生が予測されている地域以外に居住 N=250
1	水道・ガス・電気などライフラインのストップ	74.7%(115)	74.4%(186)
2	自宅(家屋)の倒壊・損壊	64.9%(100)	61.6%(154)
3	食料品・飲料品の不足	68.8%(106)	56.8%(142)
4	家具の転倒、ガラスの飛散による閉じ込めや怪我	61.0%(94)	53.6%(134)
5	家族が離散しないか(安否が確認できるか)	58.4%(90)	52.0%(130)
6	類焼火災(近所からのもらい火や大規模火災)	49.4%(76)	38.0%(95)
7	避難場所へ安全に速やかに移動できるか	44.2%(68)	30.8%(77)
8	自宅(家屋)からの出火	42.2%(65)	34.8%(87)
9	河川の防波堤の決壊や浸水	29.9%(46)	16.4%(41)
9	津波	29.9%(46)	9.2%(23)
11	治安の悪化	27.3%(42)	16.8%(42)
12	高齢者の家族を無事避難させられるか	17.5%(27)	11.6%(29)
13	その他	1.3%(2)	1.2%(3)
	不安を感じることはない	0.0%(0)	2.0%(5)

5)お住まいの大規模災害への準備について「十分に準備していると思う」はわずか2.8%

- ・お住まいの大規模災害への準備について質問したところ、「十分に準備していると思う」はわずか2.8%。「十分ではないが、現在できる準備は行っていると思う」が21.0%となりました。
- ・逆に「あまり準備しているとはいえない」(49.6%)、「全く準備していない」(24.0%)、「準備するつもりはない」(2.6%)となり、76.2%のお住まいで準備不足であることが判明しました。

Q5. お住まいの「大規模災害への準備」は十分だと思いますか？

	実数	比率
十分に準備していると思う	14	2.8%
十分ではないが、現在できる準備は行っていると思う	105	21.0%
あまり準備しているとはいえない	248	49.6%
全く準備していない	120	24.0%
準備するつもりはない	13	2.6%
全体	500	100%

★大規模地震の発生が予測されている地域内に居住している方(154名)と 予測されている地域以外に居住している方(250名)の比較

- ・「十分に準備」と「できる準備は実施」を合算すると25.2%(地域外)から30.5%(地域内)に増加
- ・大規模地震が予測されている地域内の方でも、69.5%が準備不足と認識

Q5. お住まいの「大規模災害への準備」は十分だと思いますか？ ※カッコ内は実数

	発生が予測されている 地域内に居住	発生が予測されている 地域以外に居住
十分に準備していると思う	6.5%(10)	1.6%(4)
十分ではないが、現在できる準備は行っていると思う	24.0%(37)	23.6%(59)
あまり準備しているとはいえない	45.5%(70)	52.8%(132)
全く準備していない	23.4%(36)	20.0%(50)
準備するつもりはない	0.6%(1)	2.0%(5)
全体	100%(154)	100%(250)

6)実施している対策は、非常用備品(生活必需品、避難用品など)の準備が48.5%

⇒ Q5のお住まいでの「大規模災害への準備」について、「十分に準備していると思う」「十分ではないが、現在できる準備は行っていると思う」「あまり準備しているとはいえない」の367名に質問

- ・実施している対策のトップは、「非常用備品(生活必需品、避難用品など)の準備」48.5%。続いて、「住宅用火災警報器の設置」(40.6%)、「非常用持ち出し袋の用意」(39.2%)、「家具、テレビなどの転倒防止策の実施」(35.1%)となっています。

Q6. 大規模災害に備えてお住まいで実施している対策(複数回答) N=367

順位		実数	比率
1	非常用備品(生活必需品、避難用品など)の準備	178	48.5%
2	住宅用火災警報器の設置	149	40.6%
3	非常用持ち出し袋の用意	144	39.2%
4	家具、テレビなどの転倒防止策の実施	129	35.1%
5	消火器など消火用品の設置	96	26.2%
6	家族間での安否確認方法や非常時の集合場所の確認	91	24.8%
7	家族間での避難経路・避難場所の確認	89	24.3%
8	常に湯船などにお湯(水)をためておく	81	22.1%
9	扉開き防止具の設置	53	14.4%
10	ガラス飛散防止フィルムの貼り付け	34	9.3%
11	その他	3	0.8%

★大規模地震の発生が予測されている地域内に居住している方(117名)と
 予測されている地域以外に居住している方(195名)の比較

・「非常用備品(生活必需品、避難用品など)の準備」は、43.6%(地域外)から60.7%(地域内)に増加。「非常用持ち出し袋の用意」も、39.0%(地域外)から44.4%(地域内)に増加。

Q6. 大規模災害に備えてお住まいで実施している対策(複数回答) ※カッコ内は実数

順位		発生が予測されている地域内に居住 N=117	発生が予測されている地域以外に居住 N=195
1	非常用備品(生活必需品、避難用品など)の準備	60.7%(71)	43.6%(85)
2	非常用持ち出し袋の用意	44.4%(52)	39.0%(76)
3	住宅用火災警報器の設置	42.7%(50)	42.6%(83)
4	家具、テレビなどの転倒防止策の実施	37.6%(44)	36.4%(71)
5	消火器など消火用品の設置	29.9%(35)	26.2%(51)
6	家族間での安否確認方法や非常時の集合場所の確認	26.5%(31)	27.7%(54)
7	常に湯船などにお湯(水)をためておく	23.9%(28)	26.2%(51)
8	家族間での避難経路・避難場所の確認	20.5%(24)	21.5%(42)
9	扉開き防止具の設置	17.9%(21)	13.3%(26)
10	ガラス飛散防止フィルムの貼り付け	12.0%(14)	9.7%(19)
11	その他	2.6%(3)	0.0%(0)

7)お住まいで準備している備品は、「懐中電灯や手回し充電ライト」「食料(保存食含む)」

⇒ Q6. で「非常用備品(生活必需品、避難用品など)の準備」や「非常用持ち出し袋の用意」を選んだ218名が回答

・お住まいで準備している備品について複数回答で質問したところ、「懐中電灯や手回し充電ライト」78.9%、「食料(保存食含む)」77.1%、「保存水(飲料水)」66.5%、「コンパクトラジオ」60.1%が上位となっています。

Q7. 住まいで準備している非常用備品(複数回答) N=218

順位		実数	比率
1	懐中電灯や手回し充電ライト	172	78.9%
2	食料/保存食含む	168	77.1%
3	保存水/飲料水	145	66.5%
4	コンパクトラジオ	131	60.1%
5	革手袋・軍手	121	55.5%
6	救急セット	120	55.0%
7	ウェットティッシュ・使い捨てカイロ	120	55.0%
8	カセットコンロやカセットボンベ	117	53.7%
9	常備薬・衛生用品	114	52.3%
10	雨具	87	39.9%
11	防寒具	85	39.0%
12	ポリタンク	77	35.3%
13	防塵マスク	46	21.1%
14	汚物処理グッズ	44	20.2%
15	ヘルメット・防災頭巾	42	19.3%
16	レスキューホイッスル	41	18.8%
17	靴底の厚い靴(避難用)	38	17.4%
18	非常用簡易浄水器	19	8.7%
19	防災加工タオル	14	6.4%

8) 備品を準備している住まいでも、孤立した場合「2日から3日耐えられる」が51.8%

⇒ Q6. で「非常用備品(生活必需品、避難用品など)の準備」や「非常用持ち出し袋の用意」を選んだ218名が回答

・大規模災害で電気・ガス・水道のライフラインが全てストップし、救援がなく孤立した場合、現在の非常用備品で何日間耐えられると思いますか？との質問に対して、「2日から3日耐えられる」との回答が51.8%。「1週間程度」が22.5%、「1日(24時間)」が17.0%となりました。

Q8. 現在の非常用備品で何日間耐えられると思いますか？

	実数	比率
1日も耐えられない	13	6.0%
1日(24時間)	37	17.0%
2日から3日	113	51.8%
1週間程度	49	22.5%
半月程度	4	1.8%
1ヶ月程度	2	0.9%
全体	218	100%

9) 最も生活に影響のあるライフラインは、「水道」54.6%、「電気」42.4%

・大規模災害などでライフラインがストップした場合、最も生活に影響のあるライフラインは？との質問に対して、「水道」54.6%、「電気」42.4%、「ガス」1.2%の順番になりました。

Q9. 水道・電気・ガスのライフラインのなかで、最も生活に影響があるライフラインは？

	実数	比率
水道	273	54.6%
電気	212	42.4%
ガス	6	1.2%
ストップしても困らない	9	1.8%
全体	500	100%

Ⅲ. 調査概要

・対象者 一戸建て(持ち家)にお住まいの既婚女性500名

20代	30代	40代	50代	60代	全体
100	100	100	100	100	500

・調査地域

北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方	全体
18	29	170	104	122	20	13	24	500
3.6%	5.8%	34.0%	20.8%	24.4%	4.0%	2.6%	4.8%	100%

・お住まいの工法

	実数	比率
木造住宅在来工法(木造軸組工法)	340	68.0%
ツーバイフォー(2×4)工法(木造枠組壁工法)	56	11.2%
鉄筋コンクリート造(RC造)	41	8.2%
プレハブ工法(軽量鉄骨造)	34	6.8%
その他	3	0.6%
知らない(わからない)	26	5.2%
全体	500	100%

・現在のお住まいを建てた年

	実数	比率
2013年から2011年	77	15.4%
2010年から2001年	146	29.2%
2000年から1991年	99	19.8%
1990年から1982年	76	15.2%
1981年以前	79	15.8%
建てた時期を知らない(わからない)	23	4.6%
全体	500	100%

・大規模地震の予測と居住地

	実数	比率
大規模地震が予測されている地域内に居住	154	30.8%
大規模地震が予測されている地域の近くに居住	128	25.6%
大規模地震が予測されている地域には居住していない	122	24.4%
わからない(知らない)	96	19.2%
全体	500	100%

・調査時期 2014年1月下旬

・調査方法 インターネットを通じてのWEB調査

《参考》

■新耐震基準について

新耐震基準とは、数十年に一度程度発生する震度5程度の地震に対して構造躯体に損傷を生じず、数百年に一度程度発生する震度6強～7程度の地震に対しては倒壊・崩壊しない程度の耐震性能をいいます。

全国全ての建物に耐震設計が初めて義務付けられたのは1950年です。この年に建築基準法が制定されました。その後1964年の新潟地震、1968年の十勝沖地震を経て1971年に建築基準法が改正され、その後1978年の宮城県沖地震を経て1981年6月に大きな改正がありました。

この1981年6月以降の耐震基準を「新耐震基準」と呼ぶようになり、1981年5月以前のものを「旧耐震基準」と区別しています。

1981年(昭和56年)の改正で新耐震基準が施行され、木造住宅においては耐力壁の量、耐力壁の倍率などが見直され、耐震性が大きく向上しました。1981年6月以降の新耐震基準の住宅であれば、大地震発生時でも家の倒壊・崩壊は免れ、家の中にいる人の命は守られる程度の耐震性を備えていることとなります。

なお、1981年の新耐震基準の制定後、2000年(平成12年)には木造住宅において耐震性に大きく影響を与える改正がありました。具体的には、事前の地盤調査および地耐力に合わせた基礎形状、柱頭、柱脚、筋交いの接合部の接合方法の種類設定、耐力壁の量の確保およびバランスのよい配置など、2000年の改正で仕様が具体的に明記されました。

弊社の建物も2012年、防災科学技術研究所にて阪神・淡路大震災クラスの大きな揺れと、その余震を想定した実物大実験を行っています。結果、弊社の建物において、地震に対する高い安全性が実証できました。



<耐震実験全景写真>

■「レジリエンス住宅 CH14」(コンセプトホームは東京都葛飾区)

LIXIL住宅研究所がこれまで、キッズデザインの理想を追い求めてきた中で辿りついた、新たな挑戦が詰まった住宅となっています。

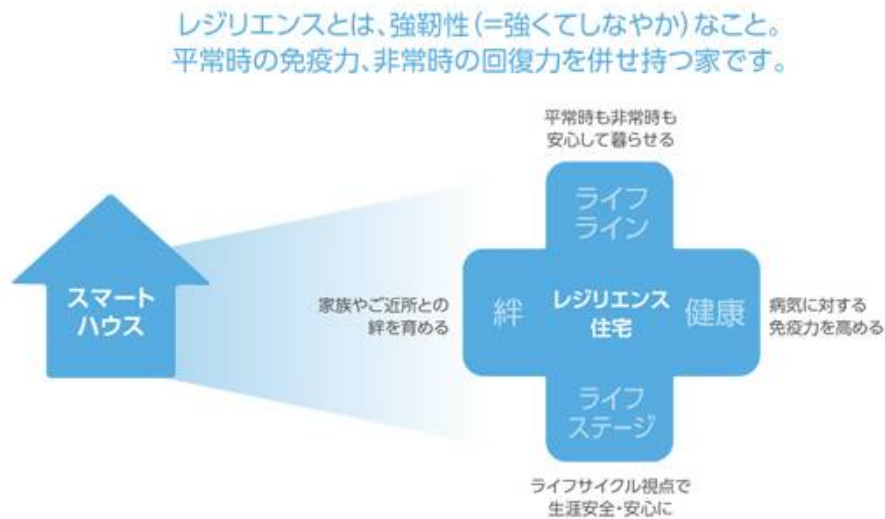
大きな特長は、日常生活では生涯にわたり家族の健康を守る免疫力を持ち、非常時には自律した生活ができ、日常への回復力を発揮することができる住宅となっています。

平常時は日射や風などの自然の力を上手に活用。太陽光発電システムと自律型コージェネレーションシステムによるダブル発電などによりゼロエネルギーで暮らせる家となっています。

また、非常時には、太陽光発電システムや自律型コージェネレーションシステムによる発電・火の利用が可能です。レジリエンス収納への水・食料の確保、雨水の利用などにより、約1ヶ月間にわたり自律して暮らせる家となっています。

なお、基本性能として、耐震等級3相当の耐震性能はもちろんのこと、繰り返しの地震にも強い制震システムを採用。さらに断熱性能については、次世代省エネ基準をクリアした仕様となっています。

これらの取り組みにより、生涯の安全・安心、家族や地域との絆を生み出すことができる、これがスマートハウスの進化形であるレジリエンス住宅です。



<レジリエンス住宅CH14特長まとめ>



<レジリエンス住宅CH14外観写真>

【報道関係者のお問合せ先】

㈱LIXIL住宅研究所 広報・宣伝部 担当:千明

電話:03-5626-8251 メール:chigirak3@lixil-jk.co.jp

アイフルホームホームページ/TOP URL:<http://www.eyefulhome.jp/>